

# ミャンマー植林箇所視察報告

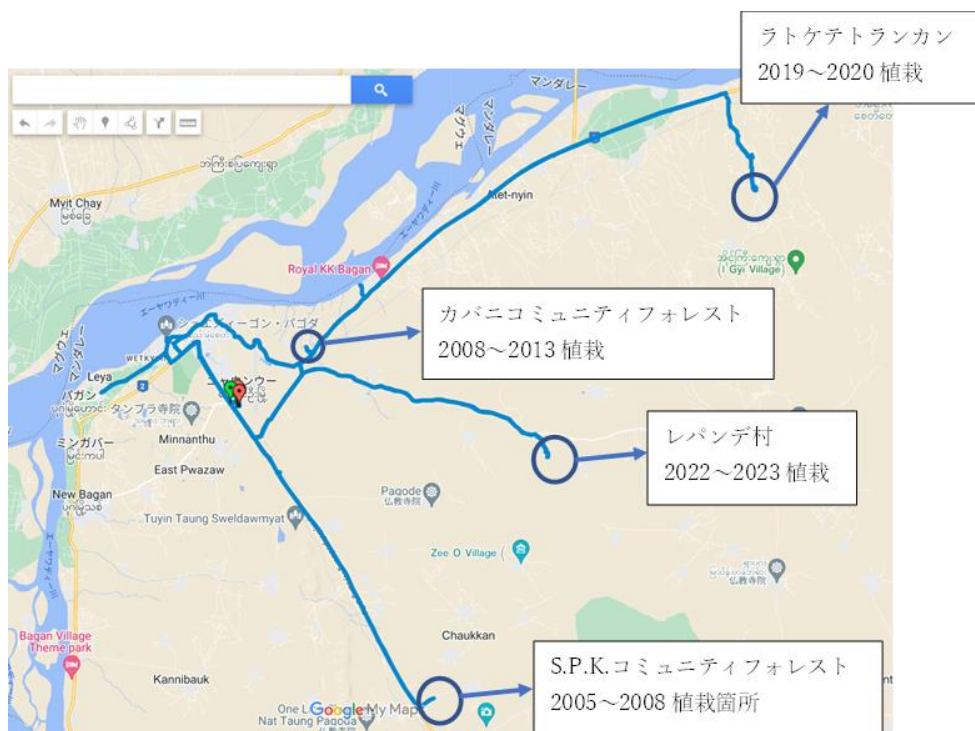
2023年5月

国際緑化推進センター (JIFPRO)

ミャンマーでは、株式会社和漢薬研究所や株式会社東京木工所などのご寄付をいただき熱帯林造成事業での植林を1997年から行ってきました。今回、これまで植林した箇所の現地視察を2023年5月14日から5月21日にかけて行いました。

ネピドーの環境保全森林省森林局やマンダレー地域事務所を訪問するとともに、ニャンウー地区で実施した過去の植林地のうち下記の個所の視察を行いました。

- >2005～2008年植栽 S.P.K.コミュニティフォレスト
- >2008～2013年植栽 カバニコミュニティフォレスト
- >2019～2020年植栽 ラトケテトランカン村
- >2022～2023年植栽 レバンデ村



## 1. 環境保全森林省森林局訪問

ネピドーにある環境保全森林省森林局を訪問し、タン・ナ・ウー森林局次長ほか森林局の方々にお会いしました。先方からは、「ニャンウー地区は、特に貧しい地域であり、過去30年近くにわたる JIFPRO の植林は住民にとって燃材の供給や、生計向上に大きく貢献してきた」との評価をいただきました。



ミャンマー森林局の方々と

## 2. 現地視察

マンダレー管区ニャンウー地区は、降水量が年間 500～1,000mm となるミャンマー中央部に位置する中央乾燥地にあり、乾燥が強い地域です。視察した各植林箇所状況は次のとおりでした。

### (1) S.P.K.コミュニティフォレスト (2005～2008 植栽)

本箇所は、ユーカリ、チーク (*Tectona sp.*)、アカシア、タガヤサン (*Senna siamea*) を植栽、ニーム、コッコ (*Albizia lebbek*) の複数樹種を植栽している。植栽後 15～18 年が経過しているが、例えばユーカリの樹高は 8～10m で、道端で生長が良いものでは 16m になるなど、良く成長しているとともに、沢地形では、天然更新により生育した樹種も見られ、自然植生が回復している様子が見受けられた。ユーカリでは、家屋の建築に用いられるポールや、燃料材として使われており、2 回目の萌芽更新している状況も見られ、良く利用されていた。



S.P.K.コミュニティフォレスト



S.P.K.コミュニティフォレスト



伐採利用後の萌芽更新状況 (S.P.K コミュニティフォレスト)





沢筋の植生回復状況 (S.P.K コミュニティフォレスト)

(2) カバニ・コミュニティーフォレスト (2008～2013 年植栽)

本箇所は、ユーカリ、ビルマチーク、ニーム、コッコ (*Albizia lebbek*)の複数樹種を植栽している。植栽後 10～15 年が経過しているが、良く成林していた。本林分は、近隣の村で、河川の氾濫により移住をせざるを得なかった村の村人により、燃材として使用されているとのことである。ユーカリの枝が伐採されているところ、また、過去に伐採されたユーカリが萌芽更新により、更新している状況を確認した。



ビルマチーク (カバニ・コミュニティーフォレスト)



カバニ・コミュニティフォレスト



ユーカリの萌芽更新（カバニ・コミュニティフォレスト）



燃料として利用するために伐採された枝（運搬のために乾燥させている）（カバニ・コミュニティフォレスト）



### (3) ラトケ・テトランカン村 (2019～2020 年植栽)

ラトケ・テトランカン村の植栽地については、Government disposal site と呼ばれる土地であり、政府の管理地ではあるが、森林局が他部局からの許可を得て、住民との合意・協力の下、ユーカリ、アカシアカテチュー、ビルマチーク、ステルクリアの植林を実施している。

本地区も、乾燥が著しく、湿潤地域のような成長は難しいが、植栽木は活着しており、特にユーカリについては上長成長も良好であった。なお、微地形により成長の状況が異なることが林況から示唆された。

住民からの聞き取りを行ったところ、ラトケ・テトランカン村の住民は、豆、ゴマ、トウモロコシなどを栽培し、牛も飼っている。村の近傍に少しだけ木を植えているが、植林に携わるのは実質的に本プロジェクトが初めてとのことであった。植林の意義と課題については、今後植林木が成長すれば、家の材料としてポールを採取したり、ステルクリアからの樹脂（カラヤゴム）の採取による収入を期待している、植生に緑が回復していくことも大事であり、今後も植林を続けたい、課題としては、下草（雑草）の繁茂であり、下刈りを十分に行わないと火が入ってしまうとのことであった。



ユーカリ（ラトケ・テトランカン村）



ステルクリア (ラトケ・テトランカン村)



アカシア・カテチュー (ラトケ・テトランカン村)



ラトケ・テトランカン村の住民

#### (4) レバンデ村 (2022～2023 植栽)

2022～2023年に、森林局の管理地内で、地元住民との共同により、ユーカリ、アカシアカテチュー、ビルマチーク、ステルクリアの植栽が実施された。2022年の植栽時期が少し遅れたもの(7月)については、苗木の定着から成長に至るまでの十分な期間がなく、ユーカリについては比較的良い成長を示しているものの、それ以外の樹種については、植栽後の成長は視察時点では大きくはなかった。しかし、多くは活着しており、視察時期後の雨季の成長が期待できる状況であった。なお、一部枯死したものについては、補植苗が準備されていた。

本地区は、森林局管理地であるが、近隣の村人が植林を行い、村人とは成長後にポールや枝などが採取できるような合意を結んでいる。

村人からの聞き取りを行ったところ、豆やとうもろこしなどを栽培する農業で生計を営んでおり、牛も飼っている。これまで、植林を行ったことがなく、今回森林事務所の指導により初めて植林を行い、グループに分かれて共同で作業を行ったとのこと、共同作業による村の団結や今後の緑の回復に期待するとのことであった。植林木の利用方法としては、ポールを採取し家などの建築への利用、枝の採取による燃料材利用、ステルクリアからの樹脂(カラヤゴム)の採取による収入を期待しているとのことである。

なお、植栽に従事しているのは男性のみで、女性は家の近くで農業に従事しているとのことであった。



レバンデ村の植栽状況





レバンデ村の植栽状況



休憩小屋（レバンデ村）



レバンデ村の村人



補植用の苗木（レバンデ村）

（専務理事 高原 繁）